

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

フェーズが変わった！コロナ禍の地域づくりを考えるために

新型コロナウイルスに翻弄され続けた一年が過ぎ、ワクチンの効果に明るい期待が持てそうな時期に次々と新たな変異株の情報が住民を不安にしています。つながりを切らない地域づくりをするために、新たな工夫をしなければならなくなりました。昨年度に見えてきた地域と生活支援 Co の課題からも明らかに「フェーズが変わった」と考えて、新たな取り組みも考える時期にきたと考えます。今年度は生活支援 Co の基盤づくりから地域住民が安心して暮らすことを開発できることに取り組みたいと考えています。

度重なる試練を抱える住民を守るために



「住民と行政と組織と他の機関と対話でつながる生活支援 Co」をめざす

今までの活動、コロナ禍での活動を振り返る

2020年

課題整理期・ネットワーク形成期

- ①個人の課題、環境・制度・研修方法・見える化の課題等が明確になる
- ②県内の実践の見える化

「えんがわナビ」等で明らかになった声・課題を話し合いながら学

2021年～

活動の実践と学びの期間

- ①整理された課題解決のための試行錯誤の実践
- ②課題解決の実践結果共有による集合知
- ③新たな課題解決方法の模索とさらなる実践

コロナ禍で不安な日々を送る住民を支えるために

活動の発展期・実践期・ワーカーとしての成長

- ①行政や住民と効果的に意思疎通をとれる生活支援 Co としての成長
- ②実践的な研修体系の開発
- ③新たな生活様式を取り入れたつながりのある地域の広がり
- ③住民活動を多角的に科学的に立証できる見える化の開発

【発行元】(令和3年5月10日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)

令和3年度 生活支援 Co 養成事業としてめざすこと

「住民と行政と組織と他の機関と対話でつながる生活支援 Co」

生活支援 Co が、交流、学びの場を主体的に企画しネットワークを構築する。



1. 生活支援 Co を支える仕組みの構築（ネットワーク化）

特に力を入れるところ

2. コロナ禍における住民主体の協議の場づくりへの支援

住民の対話（コロナ禍で難しくなった住民活動の活性化をめざす。

現場状況の伝達のためのニュースレターの発行。行政への地域活動等の報告の情報収集及び検討

4. 委託事業としての生活支援体制整備事業の“見える化”

3. 生活支援 Co の能力開花のための環境整備（構造的問題への取り組み）

特に力を入れるところ

地域での生活支援 Co の役割の重要性を行政・組織等が理解できるようになる。

コロナ禍で考える、動く、つながる！ 県内市町の実践事例

空き家から広がる地域のつながり(香美町社協)



Point いろいろなものが大切なものに！

数年前から社協の会議室で認知症カフェを行っていましたが、「雰囲気固いなあ」ということで空き家（元民宿）「みんなの家」を開始しました。ここでは、認知症カフェ・かあちゃん食堂・サロン・kaming(カミング)（引きこもり等支援）の活動が行われています。



この活動の中で「ここに来るのに2回も休む」という声を聞いて「町に座れる場所をつくらう！」と参加者がスキー場で破棄されるスノーボードをもらってスノーボードベンチづくりが始まりました。活動の枠にこだわらず自分のことをしようと取り組んでいます。



スノーボードベンチ



この居場所は、さらに草ボウボウだった裏の畑をご近所の手助けをうけ開拓し、立派な野菜が収穫されました。そして、海辺で住民やこの家の利用者や専門職等が海辺で収穫祭が開かれます。

コロナ禍での工夫 この家の住民は、お人が来てくれるのが大好きな方でした。だから、コロナになってもできるだけ人が来られるように、かあちゃん食堂は時間を30分ずつずらして3回に分けました。家の中でも窓と人との間をあけて、感染予防の工夫が満載。近隣の住民が飛沫防止のついでてを作ってくれました。コロナ禍でもこの家の人と活動につながり続けていることを元住人も喜んでおられるのではないかと思います。（森田氏談）

止まってしまった活動に向けての切り札！

「新しい」地域福祉活動ガイドブックを作成 (宍粟市社協) 波多野氏談

令和3年4月発行
宍粟市社協 HP からダウンロード可 8P



背景・きっかけ	コロナ感染拡大で活動が完全に止まってしまいました。新年度になっても集まるのが難しい状況です。住民だけに負担をかけないようにすることを考えました。
工夫したこと	全社協、河内長野市社協、淡路市社協等の情報、事例を参考にしながら動けない時期にコツコツと情報収集しました。集まらなくてもできること、訪問時の工夫等、活動者が自分たちで決めて具体的に動けるようにしました。
ねらい	新年度の引継ぎ時期の活動に向けてカードをきりたい。職員も共通の認識が持てるように。淡路市のプランターファーム活動を小地域の中のきっかけづくりにと考え、どこかがモデル地区になってさらに広がることを期待しています。

【編集後記】コロナ感染拡大の第4波がきました。そして、緊急事態宣言発令、変異株、いつ接種できるかわからないワクチン。感染力と若い人でも重症化させてしまう力を増したコロナウイルスに昨年とはまた違う不安を地域住民は抱えることになりました。そんな中で、私たちの役割は何か。昨年から生活支援 Co の課題や方向性を考えてきましたが、今年度は、一歩進みます。こんな時だからこそ、生活支援 Co として一丸となり、お互いに情報交換しながら、工夫し、学び、フェーズが変わっても地域づくりにまい進していきたいと考えています。